

学校運営計画 (4月)		評価 (3月)			
学校運営方針	志をもって意欲的に学び、自律心と思いやりの心をもつ、たくましい生徒の育成をめざし、「さらなる飛躍をめざす糸高」のもと、生徒一人ひとりの「確かな学力」と「豊かな心」「健やかな身体」の三位一体的な形成を基盤とし、「生きる力」を醸成することで、自己実現をめざす。				
昨年度の成果と課題	年度重点目標 具体的目標				
全職員の組織的・協働的な指導体制により、生徒の生活態度や学習態度など良好な状況であるが、生徒の学力向上と全人的な成長のため、教師の授業力向上及び生徒一人ひとりに寄り添う指導をさらに充実させていく必要がある。 今後福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の成果を生かしつつ、九州大学のM2Bシステムをはじめとした連携・協力を引き続き、多方面にわたり図っていく。 また、「糸高志学」の取組は、生徒一人ひとりに多様な見方・考え方の重要性を深く考えさせる契機となった。これらの学習成果を学習指導や進路指導に生かすほか、各学年次での公開発表会を今後も設定するなど精力的に取り組んでいきたい。 そして、平成30年度末のJR新駅開業など本校の魅力を生かした全中高校生・保護者に理解を深めていただくよう、広報活動のさらなる充実を図る。特に、本校志願倍率の急激な伸びと受検生のレベルアップを図ることができたので、今後もさらなる伸長を図ってきたい。					
自主積極の精神に則り、礼節、規律、自専心、思いやりの心を導き、豊かな人間性を育むとともに、糸高生としての誇りを持たせる。	教師の率先垂範による、時間厳守、挨拶、清掃、適切な言葉遣い等の活動を通して、生徒の自主性、積極性を養う。 いじめに関する研修を重ね、認知度を高め、組織的・恒常的に取り組む。また、面談やアンケート、生徒観察などにより生徒理解を深め、 ・「新品のように」を合言葉に、美化運動の充実を図る。 ・積極的に地域と連携・協力し、信頼関係を深化させるとともに、より地域社会に貢献する学校づくりに努める。				
「主体的・対話的で深い学び」により「確かな学力」を育む授業等を展開し、学力の向上をめざす。	学力の三要素である「知識・技能の確実な習得」「思考力、判断力、表現力」「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業を推進する。 ・生徒への授業アンケートや学校関係者評価委員会等による指導・助言や、様々な研修を通して研鑽を積み、授業力の向上を図る。 ・生徒の生活に関する状況の把握や教科・科目の学習ガイダンス等を充実させ、基本的な生活習慣や学習習慣の指導改善を図る。 「糸高志学 (糸学)」による教科横断的な学習活動を通じて、「地球的規模で考え、足元から行動する (Think Globally、Act Locally)」生徒を育成する。 大学入試改革 (新テスト対応) や高大接続に関する研修を行い、時代と社会に求められる、本校が育成すべき人物像を明確に共有し、その実現のための学習指導や進路指導の充実を促進する。				
学校行事の活性化や部活動の強化による学校生活の充実を図る。	・学校の活力の源である学校行事、生徒会活動や部活動指導を通じて、自主性と積極性を養う。 ・学校の状況を、ホームページをはじめとする種々の手段を通して、迅速かつ広範に発信し、広報に努める。 ・「共感の人間関係の育成、自己決定の場づくり、自己存在の涵養」を推進し、生徒の自己指導能力を育む。				
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価 (3月)	次年度の主な課題	
生徒育成部	教務課	「主体的・対話的で深い学び」の視点に立ち、「知識・技能」「思考力、判断力、表現力」を高める授業を推進する。	年間5回の定期考査における観点別作問の研究を行うとともに、観点別に点数を配した評価を行う。 観点別評価システムを導入し、生徒の「知識・技能」「思考・判断・表現力」への意識づけ及び動機づけを行う。		
		大学入試改革や高大接続への動向を注視し、大学入学共通テスト (新テスト) へ対応した確かな学力を育成する。	新テスト対応方針に則り、授業や考査を通して、「知識・技能」「思考・判断・表現力」を高める。 考査問題において思考力を問う記述式問題を必須とし、新テストへ対応できる思考力・記述力を高める。		
		中学校・学習塾への計画的かつ組織的な広報活動を行い、本校の魅力ある教育活動を発信し、信頼関係を深める。	年間4回 (延べ500校) の訪問を実施し、各教育機関 (中学校、学習塾等) との情報交換を密に行う。 体験型の体験入学や学習塾、保護者対象の説明会を実施することで、本校の魅力について体感していただくことで理解を深める。		
生徒指導課	ホームページの充実を図り、リアルタイムな情報を随時発信する。	各学年や分掌担当者が、学校行事や各学年の取組など、本校の教育活動をリアルタイムに発信することでホームページの充実を図る。 部活動顧問が、公式戦や練習状況などの情報をタイムリーに発信することにより、魅力的なホームページとする。			
	校訓を具現化する生徒の育成及び集団の形成を図り、充実した高校生活の確立を目指す。	教師の率先垂範による「挨拶」「時間厳守」「身だしなみ」を基盤として、自己指導能力を育成し、基本的な生活習慣を定着させる。 学校行事や生徒会活動、部活動 (参加率86%以上) の充実を通して、自主性や積極性の向上を図り、目標を達成させる態度を養う。			
	安全で安心できる学校環境づくりを進め、いじめを生まない人権感覚に満ちた環境を整備する。	登下校時の交通安全指導を実施し、安全に対する意識を向上、実践させる。特に自転車での事故を防止し、事故件数を減らす。 積極的な生徒観察及びいじめアンケート等の活用を通して、生徒理解を深め、職員間で情報共有しながら組織的・協働的に対応することによりいじめや自殺の未然防止に努める。			
キャリア教育推進部	進路指導課	現代社会が抱える問題を自らの問題として捉えさせ、社会で真に役立つ人材へ成長することを支援する	高大接続改革の視点に立ち、新テストに対応するための思考力・判断力・表現力を育成する取組を行う。 高校3年間を見通したキャリア教育を計画し、効果的に実施する。生徒の発達段階に応じ、「知識」 (1年)、「経験」 (2年)、「表現」 (3年) をそれぞれキーワードとする。		
		自らを向上させようとする意識を持たせ、広い視野を持ってより高い進路目標に向かって努力し続けるための環境を整える。	模試成績を活用し、生徒に自らの可能性を認識させ、より高い進路目標が持てるよう指導する。また、実検や選検等の各種資格の取得率向上を図る。 一般入試に対応できる学力の養成に努め、国公立大学50名以上、西南学院大学100名以上、福岡大学150名以上の合格を具体的目標とする。		
		教員一人ひとりの資質向上及び学校改革につながる研修機会を充実させる。	課題解決力向上など本校の教育力を高めるための校内研修会 (年5回以上) を実施する。 教員の相互授業参観を計画的に実施することで、授業力向上を図る。また、相互授業参観の実施強化期間を設ける。		
保健安全課	図書館・視聴覚教室の各施設が生徒にとって親しみやすく、快適に利用できるように努める。	年2回、7月と12月に運営会議を実施し、生徒や教員が必要な図書を購入できるように努める。 図書館展示の工夫を行う他、情報誌『らいごららい』を発行することで生徒の読書への関心を高める。			
	生徒が心身共に健康な生活を送れるよう、職員間の共通理解を図り、指導とサポートに役立てる。	保健だよりを毎月発行し、熱中症 (夏季)・感染症 (冬季) 等に関する健康情報をタイムリーに提供することで、疾病や事故の予防に努める。 保健室利用状況について学年・男女別に集計し、月毎の統計を作成することで、生徒の健康管理能力向上に役立てる。			
	清掃活動の徹底を行い、「きれいな糸高」を全職員・生徒で実現する。	美化コンクールの実施 (2学期) やワックスがけの実施 (5月、10月、3学期) により、校内の環境美化を推進する。 各行事前後の大掃除や定期考査前の教室点検の実施、各学校行事にあわせて環境整備 (学校視察・PTA総会等) を行う。			
庶務課	式典 (入学式、卒業式、創立記念式) や学校行事の円滑な運営を行う。	各式典、学校行事等、総務及び各関係分掌との連携を密に行い、諸行事への関心を高める。 業務の標準化・情報化を行い、全職員が組織的・協働的に運営できる環境をつくる。			
	机や椅子、テント等の備品を適切に管理し、校内の学習環境の向上に努める。	机や椅子、テント等の備品の購入において規格の統一を図る他、校内の用具破損等の補修を適切に行う。 机や椅子、テント等の備品管理の手順について標準化及び情報化を進め、効率よく利用できるようにする。			
	生徒、教員が共に学ぶことで糸学を「活かした学び」とする。	生徒の学びを深化させるために、ICTの活用や教科横断的な学習の展開を積極的に行う。 地域について学ぼう前課を充実させ、糸島市だけでなく他地域の事例についても情報収集を行う。 糸学の主旨や意義についての理解と共有を促進する。このことにより、地域社会の豊かな担い手となる人材の育成を目指す。 糸学について、各学年の目標を達成するための振り返りの充実や、実施方法について改善を行う。			
糸高未来支援部	研究開発課	教育活動を整理・評価し、改善、改革とともに、優れた活動を継承・発展させるためのしくみをつくる	授業改善、授業力向上の取組であるITOKプロジェクトの推進を通して、恒常的な研究・開発の組織づくりを進める 本校が取り組んできた福岡県立学校「新たな学びプロジェクト」の成果を「ITOKプロジェクト」において継承する		
		将来の社会で活躍する人材を育成する観点から、次世代の新しい教育手法を導入する	すべての授業において、ICT活用を含めた21世紀型授業を導入し、その導入割合を100%とする。 九州大学M2B学習支援システムを導入し、授業外学習の充実と教員による授業改善、生徒による学習改善を行う。		
		保護者と生徒と教師の信頼関係を確立し、自律心と思いやりの心を持った社会性豊かな人材を育成する。	保護者会や進路講演会等とおし、社会で生き抜く力をつけるための教育への協働関係を構築する。 規範意識と思いやりを身につけさせ、お互いを尊重できる心育てるなど社会に貢献していく資質・能力を高める。		
第1学年	志をもって意欲的に学ぶ姿勢を身につけさせ、進路意識の早期確立に努め、高い目標を達成できる「思考力・判断力・表現力」を育てる。	自己管理能力を高め、目標を持って主体的に学習に取り組む姿勢を養う。 社会の一員としての自覚と課題意識を持たせ、具体的目標を持たせることで将来の活躍する自分像を明確にさせる。			
	家庭と学校の協力で生徒を育てる。また、ルール・マナー等を守る規律性を育て、自専心・思いやりの心豊かな人材を育成する。	時間厳守や挨拶、言葉遣いなど将来の社会人としての資質・能力を高める指導を積極的に行う。また、行事等を通じて生徒の活躍の場を作り、生徒の自己有用感を高める。 糸高メールの活用により、学校の諸行事・活動、PTA活動などの案内を保護者へ届け、家庭と学校の関係を密なものにする。			
	学習力を向上させることで基礎学力の定着を図り、変化の激しい社会に対応できる人材を育成する。	朝読書を活用し、生徒の読解力・読解力・表現力の向上や時事問題への興味・関心を喚起する。 糸学を通して、地域の課題を考え、解決策を個人だけでなくチームで考えることで「考え抜く力」、「チームで働く力」を身につけさせる。			
第2学年	教師の率先垂範により、生徒が自主積極の校訓を実践できるよう働きかけ、クラス・学年・地域社会へ貢献できる生徒を育成する	将来の社会人として必要な基本的な生活習慣や学習習慣をしっかりと身につけさせ、社会で評価される人間力の向上をはかる。 学校行事や部活動など諸活動を通じて、リーダーシップに富む生徒をより多く育て、前向きで積極的な集団を作る。			
	考えながら授業を受ける姿勢を確立し、生徒会員の希望進路実現と生涯にわたってチャレンジしていく姿勢と最後まで頑張り抜く姿勢を身につけさせる。	考えることや挑戦することなどから逃げない姿勢を作り出し、達成感を感じさせる。合格者について国公立大50名以上、西南学院大100名以上、福岡大150名以上とする。 進路実現は最終ゴールではなく、一つの通過点である事理解させ、最後まであらゆる「力」の向上に真摯に取り組ませる。			
	第3学年				